

より浅学非才の身であるから、十分にご期待に沿うことができるかどうか甚だ心もとない次第であるが、このようになった以上、奉仕の精神に徹し、全力を尽くして任期一杯わが国の学術の発展

のために努力したいと考える。日本学術会議の活動に注目され、十分な成果を達成することができよう一層のご支援を賜りたいと切望している。

## 日本学術会議会員に再選されて

今回日本学術会議第15期会員として再選され去る7月22日に海部内閣総理大臣から辞令を交付された。誠に光栄でありご推薦いただいた日本オペレーションズ・リサーチ学会をはじめとする経営工学系諸学会の皆さんに厚く感謝申し上げますと共に、今更ながら責任の重大さを深く感じている。

ところで、今回は、私の出ている第3部(経済学系)で理系の出身者が私1人となり、いささか心細いことであるが、いつも文系の人びとから言われる、「理系の人はナイーブだから…」というような牽制にはめげず、元気にやってゆきたいと願っている。第3部の会員は26名で、これが経済理論(経済事情を含む)、経済政策、国際経済、経済史、財政学・金融論、商学、経営学、会計学、経済統計学に分れていて、このうち経営学は私を含めて5名である。第3部長は私の親友で東京大学名誉教授・関東学院大学教授の大石泰彦先生(経済理論)、また副部長は前期以来の友人の東洋大学名誉教授・愛知学院大学教授の島袋嘉昌先生(経営学)で心強い。古巣の第5部(工学)には、東京工業大学当時の友人が何人もいてくれるが、なんといっても、私どもの先輩で本学会元会長の近藤次郎先生がおられて、第13期、第14期に続いて3期目の日本学術会議会長に文句なしで当選されたのは大変嬉しいことである。本学会も同先生の推薦母体として大いに誇ってよいことであろう。

私は、第14期にひきつづいて、今期も「経営情報」研究連絡委員会の世話人を仰せつかり、やがて委員長をひき受けることになる。そうになったら、まず、時間のかかる話であるが、学術会議の

産能大学 松田 武彦



中に「経営情報学」の柱(研究領域)を立てるよう努力するつもりである。

実は「経営工学」の柱を6年前に立てたばかりであるが、経営情報の仕事が学問的にも実務的にもこれだけめざましく進歩している今こそ、これはやるべきだと思っている。もちろん、ORもこの柱に深くかかわるものと考えている。次に、前期はいささか勉強会的であった(一応報告書はアウトプットしたが)委員会だが、今回はプロジェクト研連らしく、たとえば“3年”というような期間をはっきり切り、いくつか重要なテーマに絞って審議をすすめたと思っている。「経営学」研究連絡委員会(本学会からも委員が出るはず)とも緊密に連絡をとってゆきたいので、何分ご協力をお願いする次第である。

日本学術会議そのものについても、色々願ったことが沢山ある。たとえば第1~7部の分け方は戦前の東京帝国大学の学部の分け方そのままである。学問の学際化がこんなに進んだ現在、私達は第8部(名前は「その他」でも何でもよい)の創設をめざしている。そうしないから「家政学」の先生が(余裕のある)農学に入れられたりするるのである。また各部の人数割りも昔決まったままで経済学系と工学系がほぼ同人数という時代離れたのしたことがまかり通っているのが現状である。

色々言いたいこともあるが工学・経営工学・経営学のかげ橋の勤めを果たせば幸いで、会員諸兄のご後援をお願いすること切なるものがある。